

鶴岡食文化創造都市推進協議会 - 英語webサイト（鶴岡の酒文化）

山形が2004年に日本酒アワードで他のどの県よりも多くの金メダルを獲得したとき、その成功が明らかになりました。それ以来、県は表彰でトップの座を維持しています。2017年の国税庁のデータによると、山形で生産される日本酒の78%がプレミアムグレードであるのに対し、全国では34%です。

山形酒の評判が確立された次のステップは地理的表示（GI）でそれを保護することでした。この取り組みは2011年に始まりました。国際協定では、このシステムは、地理的地域に関連する評判または品質を持つ製品に制限されることが定められています。山形は、日本酒、酵母、麴の地域的な品種により、これらの要件を満たしていました。山形日本酒は、すっきりとした清酒で知られています。登録の最大の障害は、評価基準とタイミングに関する50人以上の醸造者の合意でした。2016年12月、多くの計画、交渉、ロビー活動を経て、山形日本酒は地理的表示を登録しました。2018年1月に「GI山形」のマークがついた最初のボトルが棚に登場しました。

日本酒には、さまざまな味、香り、価格があります。20世紀半ばまで、山形県の53の小規模な醸造所は、地元で流通するための安価な日本酒の製造に注力してきました。今日、日本海沿いのこの雪に覆われた県は、市場の最前線で最高の日本酒生産地域になっています。有名な醸造所が生産する日本酒の品種は、軽くてすっきりとした味わいで有名です。

ここまで到達するのは簡単ではありませんでした。30年前、地元で生産されていた日本酒は別のもので、日本酒好きにはあまり人気がありませんでした。山形市並びに全国の小規模な地元の家族経営酒屋は、地元市場への販売のみで運営されていました。1970年代に、経済は悪化し始めました。1940年代後半以降に生まれた人々は、ワイン、ウイスキー、焼酎（多くの場合ジャガイモから作られる透明な蒸留酒）などの他のアルコール飲料を発達させ始めました。その結果、日本酒の消費量は減少しました。

その後の20年間、多くの醸造所は不況を乗り越えて事業を維持することができず、閉鎖を余儀なくされました。しかし、一部の醸造所は、高価値の製品である高級酒を作ることに焦点を移すことで生き残ることができました。彼らの新しいターゲットオーディエンスは、全国の都市部のハイエンド層の顧客でした。地域によって成功はさまざまでしたが、山形の生産における官民連携のアプローチは、日本酒産業を好転させ、地域経済を後押ししました。

酒には、特定名称酒と普通酒との2種類があります。プレミアムグレードの普通酒には、純米、吟醸、本吟醸の3種類のプレミアム品種があります。これらのプレミアムグレードの品種を分類する際には、次の3つの基準が考慮されます。

1.材料：米、米麴、水で作った高級酒を「純米酒」と呼んでいます。日本酒にも蒸留酒が少量含まれている場合は本醸造と呼ばれます。

2.醸造工程：精白米を用いて低温で時間をかけて醸造する酒は、吟醸と呼ばれています。3つの基本成分に蒸留酒を加えない場合、純米吟醸と呼ばれます。

3.精米歩合（精米度）：精米歩合は、精米後の米粒の残り部分の割合です。パーセンテージが低いほど、より高度に磨かれた米が使用されたことを示します。吟醸（プレミアム酒）を作るために、米の大部分が精米されます。さらに精米して大吟醸を製造しています。精米歩合は、酒を特別純米および特別吟醸として指定するための基準の一部です。

精白米を使った日本酒は、通常、値段が高く、上品な味わいであると考えられています。このモデルに続いて、大吟醸は最も高価な日本酒です。

蒸留アルコールは、発酵プロセスの近道としてではなく、完成品の風味と香りに影響を与えるために使用されます。醸造過程で少量加えると、香りが増し、風味が軽くなります。吟醸と本吟醸は、かなり前からこの技術を使って醸造されてきました。近年、蒸留アルコールを添加せずに製造された純米品種（純米・純米吟醸）の人気の高まっています。

山形と日本酒

歴史的に、日本酒は市販されていませんでしたが、神社の神々への供物でした。そのため、現代の酒蔵のルーツは神社にあり、日本酒は多くの神社の儀式やお祭りと密接に結びついています。

日本酒も多くのイベントで大きな役割を果たしています。伝統的な結婚式では、3つの異なるサイズのカップから日本酒を飲むという手の込んだ儀式が行われます。

一方、毎年5月25日に開催される鶴岡天神祭では、知恵の神としても知られる伝説の学者菅原道真（845–903）を祝うために、参加者は参加者に酒を提供するために変装します。菅原道真は、9世紀に天皇に仕えた高貴な人物であり、その素晴らしい詩で人々に愛された博学者でした。

しかし、彼の知性は彼のライバルの藤原時平（871–909）の嫉妬を買いました。彼は道真に対して陰謀を企て、当時の首都（京都）から追放することに成功しました。道真は街を去りましたが、人々の温かい別れがなかったわけではありませんでした。亡命者に話しかけることは禁じられていたので、人々は顔を隠し、性別のない服を着て変装しました。危険をも顧みず、人々は最後にもう一度道真にどれだけ彼を愛しているかを伝えたかったのです。鶴岡の天神祭は、この別れのパレードを再現したもので、何百人もの面をつけた男たちが、道真への愛情をあらわすために、酒やソフトドリンクを無料で提供します。

毎年7月には、鶴岡の渡會本店、富士酒造、加藤嘉八郎酒造、羽根田酒造、亀の井酒造、竹の露、奥羽自慢の7醸造所が周辺地域の11の醸造所と集まり、鶴岡駅前で庄内酒まつりを開催します。ここでは、この地域のすべての醸造所から、100種類以上のおいしい日本酒を試飲できます。冬には、毎年2月の第2土曜日に開催される大山新酒まつりで、羽田、渡會、加藤嘉八郎、富士の醸造所からの新酒の最新作を味わうことができます。渡會本店には出羽ノ雪酒造資料館もあり日本酒醸造の歴史を紹介する豊富なコレクションを備えています。